

山口七夕会通信

VOL.38

2021年

6月25日

発行：山口市七夕会事務局
（山口市企画経営課内）
山口市亀山町2番1号
TEL：083-934-2746



作者 原田 哲也さん
（会員 No. 759）

「思えば遠くきたもんだ ～想いは遠く山口市へ～」



コロナの猛威、恐怖が続いています。七夕会会員の皆様におかれましては、コロナを正しく恐れながらも、様々な工夫をされ、制約の多い生活の中にも楽しみを見出しつつ、毎日をお過ごしのことと存じます。

「思えば遠くきたもんだ」。郷土の詩人、中原中也の詩の一節です。山口市を離れている皆様にとって、今ほどふる里を、文字通り遠くに感じる日々はないでしょう。しかしながら、離れれば離れるほど、帰ることがままならなければままならないほど、ふる里への想いはつのり、テレビやラジオを通じた山口市の様子に、心が癒されます。

また、フェイスブックの七夕会ページや山口市ファンクラブ、LINEの山口市サイトを閲覧すれば、懐かしい山口市の情報を詳細に確認することもできます。七夕会通信を通じて、会員の皆様の近況に触れることもできます。

直接顔を合わせる機会を創出することはなかなか難しいのが現状ですが、地元山口市の会員と遠く山口市を離れた会員とが、様々な方法で接点を持ち、交流されることを願ってやみません。中也是こう結んでいます。「なんとかやるより仕方もない」。

皆様、コロナ感染防止に最大限の注意を払いながらも、明るいほうへと前を向き、なんとかやっついこうじゃありませんか。

令和3年(2021年)6月

山口七夕会会長



< 令和3年度の七夕会年次総会の開催について >

★日時：令和3年7月31日(土)10時30分より

★場所：「ホテル雅叙園東京」東京都(最寄駅:目黒駅)

時節柄、コロナウイルス感染防止に配慮した総会といたしますので、ご協力を宜しくお願いいたします。なお、7月31日の開催は、令和3年6月10日時点における七夕会評議員会の判断です。その後のコロナウイルス感染状況等に伴う環境変化によっては、予定を変更することもあり得ますのでお含みおきください。(変更ある場合はHPの他、出席のご連絡を頂いた会員様にご連絡いたします)

ご出欠のご連絡は、この七夕会通信に同封の「総会出欠連絡票」にてお願いします。

< 目次 >

頁1	表紙
頁2	八木会長挨拶 / 令和3年度七夕会年次総会について
頁3	目次 / 山口七夕ふるさと大使の委嘱について / 新入会員の皆さん
頁4	【巻頭言(寄稿)】「上堅小路の思い出」(秋草史幸さん)
頁5	【寄稿】「新しい文化運動“山口新ルネッサンス運動”の提唱」(庄栄一郎さん)
頁6	【報告】令和2年度 本部 春の講演会・交流会
頁7	【連載コラム】 山口市内の面白名所発掘 4 「菜香亭と飛行将校・荒瀬中尉」(古谷眞之助さん)
頁8	【リレーコラム】「ふるさとの味めぐり “バリそば” 」(山根祥二さん)
頁9	【寄稿】「地元山口で地域の人と産業を結ぶシードルづくりを目指して」 (原田尚美さん)
頁10	【寄稿】「世代を超えて魅了した山口の風景」(田中美旋律さん)
頁11~12	【メッセージ】新入会員から一言
頁13	【山口市役所だより】「山口ゆめ回廊博覧会」のご案内
頁14	【事務局より】法人会員募集 / 個人会員募集
頁15	【事務局より】表紙・原稿投稿募集 / 七夕会バッジ販売会計報告
頁16	【表紙の言葉】 / 【事務局より】編集後記・事務局からのご案内

< 令和3年度・山口七夕ふるさと大使の委嘱について >

令和3年度の山口七夕ふるさと大使の新規委嘱対象の方は、平成24年1月1日から12月31日までに入会された方となります。

該当の方には七夕会通信6月号に「大使受諾に関する確認状」を同封しておりますので、受諾いただける場合には、期日までに所定の方法にてお知らせください。

なお、新任の山口七夕ふるさと大使には、7月31日に開催される年次総会にて、渡辺市長より直接委嘱状をお渡しする予定です。

< 新入会員の皆さん(個人会員番号・氏名) >

個人:787・岡村 英作さん、788・行本 徹さん

法人:公益社団法人山口被害者支援センター(代表理事 鶴 義勝さん)

令和3年5月末現在の会員数:個人会員 355人、法人会員 19法人

上堅小路の思い出

顧問 秋草 史幸 (会員No.634)

上堅小路(かみたてこうじ)という、いかにも西京・山口らしい地名。子供の頃は泥道であった。街の中心部から始まる下堅小路(しもたてこうじ)を北に昇っていくと右側に八坂神社がある。八坂神社を右手に見ながら更に北に進み、伊勢小路(いせしょうじ=現在の伊勢大路)と交差する辺りから北側の木町橋(きまちばし)までが上堅小路である。途中に光台寺(こうたいじ)という寺があった。昔の立派だった寺の本堂は焼失し、暫定の粗末な白木の小さな仮本堂が建っていた。仮本堂が小さい建物のせいか、墓と本堂との間には広い境内があり子供たちの遊び場になっていた。夏はラジオ体操、盆踊りの会場にもなった。光台寺を北へ少し行くと、左手に当時としては珍しいハイカラな洋館があった(現在も健在)。バイオリンの先生の家であった。その向いの路地を入った奥に我が家があった。



家から上堅小路に出て右に曲がるとすぐ木町橋。そこから先は天花(てんげ)といい、金鶏滝(きんけいのたき)に通じる道が更に北に向かっていく。かつてはこの道を萩からの大名行列が通って江戸に行ったと聞いた。木町橋から天花に向かい左手に曲がる道がある。その道は登り坂になっており、その先に瑠璃光寺の五重塔が見える。今でこそ五重塔の前は公園になっているが、当時は草むらの中に塔が建っていてその奥に瑠璃光寺の

本堂があった。瑠璃光寺の五重塔が国宝とは知らずに犬の散歩によく通った。木町橋から五重塔までは約500米程だが道の両側は畑で肥溜めがあり、懐かしい香りが満ちていた。冬は北風吹き曝しの登り坂であった。その道を五重塔近くまで往くと南に向かって見晴らしが開けてくる。高台のせいで山口の街の東半分が見える。山口の街は盆地なので見晴らせる街の広がり先は山が景色を遮ってしまうが、それが却って山の向うへ心を誘う。今の様に何でも見えたり判ったりするより、見えない物を想像逞しく頭に思い浮かべる方が魅力的な感覚を刺激するのかもしれない。何時かあの山の向こうに行って頑張ろうと考えたのが懐かしい。

この辺りを日に2回犬と散歩したことが、子供時代の成長に大切な役割を果たしてくれた。毎日の散歩。晴れの日ばかりではない。暑い時も寒い時もある。当時の山口は冬によく雪が降った。犬の散歩が自分の役割であることは、犬も理解していた。散歩に行かない選択肢はない。だんだん勉強が忙しくなる。散歩の時間を疎(うと)ましく思う事もあった。そういう制約を乗り越えて時間を割り出し、勉強の仕方を工夫していくという訓練が出来た。勉強は机に向かって本を読むだけが方法ではない。むしろ散歩しながらの時間が違った勉強の方法として自分に力を与えてくれた。犬に感謝するほかはない。大学二年生の時、母が犬の死を知らせてきた。一晩泣いた。自分にとって大切な思い出と学ぶ方法と力を教えてくれた犬。そしてその犬と散歩した上堅小路付近に改めて感謝したい。



新しい文化運動「山口新ルネッサンス運動」の提唱

ふるさと山口本部・事務局 庄 栄一郎(会員No.475)

●「山口新ルネッサンス運動」とは

山口市は15世紀室町時代に大内文化が花開いた地。大内文化とは、京都文化(連歌師宗祇等)、大陸文化(明・雪舟・外郎等)、西洋文化(サビエル等)を受容し融合させた世界に誇るべき文化。

ルネッサンスとは「再生」「復活」を意味するフランス語。14～15世紀にイタリア半島で古代ギリシャ・ローマの学問知識の復活を目指す文化変革運動でヨーロッパ各国に大きな影響を及ぼした。

21世紀、山口の誇るべき大内文化を復興させる文化運動を「山口新ルネッサンス」として提起。大内氏繋がりを展開口に山口と他地域の文化交流から新しい文化価値の創造を目指す運動の総称、統一ブランド。

県市各種団体も山口の文化振興を図っている。例えば「12月、山口市はクリスマス市になる」を合言葉に事業展開する山口商工会議所、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求をするYCAM(山口情報芸術センター)、県央7市町の魅力の創出を目指す山口ゆめ回廊博覧会(7/1～12/31)等である。

今までバラバラに展開されてきた事業を横断する「統一ブランド」を創ることによりベクトルを揃えることができればより効果が発揮されるのではないか。

●山口七夕会ふるさと山口本部の役割

「郷土山口市の発展に寄与する」という目的の下、今後実施される事業において積極的にPRを図る。市に働きかけ、ロゴマーク、幟を作る。

●「文化融合」の起動力、七夕会と『文化奇変隊』

新しい文化の創造に必要なのは文化の「融合」。しかし「融合」と口で言うのは容易いが実際は「心のバリアー」がありなかなか難しい。化学反応の「融合反応」では触媒やエネルギーになるものが必要のように、「文化融合」という人間に係るものには仕掛けが必要。

その仕掛けの一つが七夕会の主催する文化イベントであり交流会懇親会でお酒を飲みかわしバカになって踊ることではないかと考える。

激動の幕末、長州で維新の最大の原動力は身分を越えた志ある者の集まり「奇兵隊」。

コロナ禍、自然災害の多発により新たな社会の在り方が模索されている令和の時代、七夕会のように色んな職業世代を越えて集まって文化芸術活動する『文化奇変隊』のような組織が重要なのではないか。

●本構想提唱に至った経緯

令和3年4月6日(火)、熊本市在住の岡田かずえさん(語り芝居の役者)の公演が山口市の洞春寺であった。岡田さんとは熊本地震復興支援の縁で繋がったFB友達。好評だったので参加した七夕会のメンバーから「山口本部の行事として提案しては？」と言われ、その理論的根拠として構築した。

本運動の第一号イベントとして岡田さんの公演を山口市の文化発信拠点の一つYCAMで行いたい。

●その先へ「今、山口が面白い」

神田京子さんという全国区の講談師が、幼稚園に入園する息子を育て教育する場として縁もゆかりもない山口市を選ばれ、2020年2月、東京から山口市に移住。山口市を拠点に東京、山口(TYS「mix」、KRYラジオ)で活動されている。神田さんは伝統芸能・郷土文化芸能との融合舞台を得意とされている。

山口が面白くなってきた。



令和2年度山口七夕会本部「春の講演会・交流会」報告

本部・幹事 岡本 達也(会員No.670)

令和3年3月27日(土)、山口七夕会本部「春の講演会・交流会」が東京飯田橋のインテリジェントロビー「ルコ」で開催されました。昨年は世界的に猛威を振るうコロナ禍にあって「春の講演会・交流会」は已む無く中止、「秋の講演会・交流会」は何とか開催できました。今年に入り、コロナの猛威は衰えることなく「春の講演会・交流会」も開催が危ぶまれましたが、しっかりとした感染防止策を講じ開催にこぎつけ、36名の会員の皆様方のご出席を賜りました。

冒頭八木会長から、コロナ禍ではあっても、会員が顔を合わせることもやゆっくりであっても前進していくことが大切であるとのことご挨拶がありました。

引き続き、講演会では、大内出身である米川孝宏さん(BRAIN SIGNAL(株)代表取締役社長、山口高校、東京工大卒)から「日本のDX最前線」と題してお話を頂きました。



米川さんは、AI(人口知能)やマシンラーニング(機械学習)を使った人間の能力評価システム開発

で教育工学の博士号(工学)を取得後、ICTシステム会社の設立、ビジネスチャットやメッセージングプラットフォーム会社の創業メンバーとして東証への上場を経験し、2017年にBRAIN SIGNAL社を設立されています。

DX(Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション)とは、進化したIT技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革させるという概念のことです。ご自身の「DX的な体験」、SNSでの学習、親世代とのLINE、コロナ(COVID-19)によるICT活用の加速などのお話がありました。人工知能(AI)は「何か」を問うのではなく「どう使うか」を考える時代になっていること、視点を変えると身近な業務の効率化に活用できるというお話が印象的でした。

また、やまぐち産業振興財団が山口県からの委託事業として「やまぐち事業承継マッチングサイト」を構築し公開しています。このサイトは事業を譲りたい中小企業経営者と、中小企業経営者から事業を引き継ぎたい人材とが出会う機会を創出し、事業の承継を促進するためのマッチングサイトですが、このサイトに米川さんが関わっていらっしゃいます。

講演会後の交流会は渡邊副会長の乾杯のご発声後、七夕会顧問でもある繁永俊之山口県東京事務所長から最近の山口県に関するご案内があり、新任顧問として秋草史幸顧問が紹介されました。山口七夕ふるさと大使である関周さんから曲の披露があり、新入会員として板井川浩会員、岡村英作会員が紹介されました。

今回の交流会も昨年の秋の交流会と同様に、ひとテーブル3名掛けのテーブルにくじ引きで席を決めました。私は



岡村新会員と同席となり、じっくり話す機会を得ることが出来ました。岡村さんは山口道場門前の出身で、「ひし屋」(下

駄屋)の息子さんであるとの情報に盛り上がり、中央高校の男子15期生であることが分かって更に盛り上がりました。私の高校時代の中央高校は憧れの女子高でしたが、平成11年に男子1期生が入学し、岡村さんは平成25年入学の現在23歳。若さ溢れる青年と同席となり、有意義な時間でありました。

その後、4月から関西に異動となる村中正司本部・幹事からご挨拶がありました。高校の同期でもある村中幹事の関西転出には少なからず消沈ではありますが、山口七夕会としてはふるさと山口本部、本部に加え、関西支部の立ち



上げの一步になればとも思っております。村中幹事の関西での更なる活躍を期待しております。

続いて相山本部長から七夕会年次総会の案内が、藤井副幹事長から、

八木重二郎杯ゴルフコンペの案内などがあり、「ふるさとの風」を皆で合唱した後、奥原副会長の挨拶で中締めとなりました。

その後、解散となりましたが、一部の有志は靖国神社への花見ウォーキング、一部の有志は村中氏の送別へと、市ヶ谷の外堀りの桜を見ながら移動しました。春はやっぱり桜ですよ。



山口市内の面白名所発掘 4

「菜香亭と飛行将校・荒瀬中尉」

古谷 眞之助（会員No.607）

今から 100 年前の大正 10 年 9 月 3 日付の防長新聞に、ちょっと吃驚してしまう以下のような記事が掲載されています。

「妻殺害の罪で広島刑務所に服役中の元山口連隊の飛行中尉荒瀬壽平は、改悛の情、顕著ということで仮出獄を許された。なお大正 6 年 8 月 29 日、同氏が刺殺した妻雪子は、山口の高級料亭菜香亭の一人娘だった。」



【現在の菜香亭 イラスト筆者】

菜香亭(さいこうてい)は、明治期の元勲のみならず、その後の山口県出身首相をはじめ多くの政界人、財界人、軍人、学者たちからも愛された一流料亭で、現在は野田神社近くに移築・保存・公開されているのはご存知の通りです。その菜香亭に関する新聞記事なのですが、この記事には多くの間違いが含まれています。まず、荒瀬中尉の妻の名は雪子ではなく寿子(ひさこ)です。雪子とは寿子の実母の名で、正しくは「ユキ」であり、また寿子は菜香亭の一人娘ではありません。本当の一人娘とは、当時菜香亭を経営していた四代目主、斎藤幸兵衛・あき夫妻の一人娘「斎藤清子」なのです。ですから、この記事は正しくは「・・・同氏が刺殺した妻寿子は山口の高級料亭菜香亭の一人娘、清子の叔母だった」ということになります。何度も経験していることですが、調べ物のために古い新聞記事を丁寧に読んでいくと、かなりいい加減な記述にたびたびぶつかります。

それはともかく、一人娘の清子さんは父亡き後は五代目を継ぎ、政財界人からとても愛された有名人で、別名「おごうさん」と呼ばれました。驚いたことに、彼女は著書の中で、驚くほどに明け透けにこの叔母・寿子の事件に触れています。山口弁で彼女が語るその部分を引用してみましよう。

「わしの叔母に当たる人で、寿子というべっぴんさんがいたんですよ。そりゃ色が白うてきれいじゃったそうじゃが、最後は非業の死を遂げてねえた。菜香亭にも妙な歴史があるんですよ。そのころはとくに菜香亭の景気のいいころじゃし、飛行機の出始めごろでね。荒瀬という十二連隊の飛行将校さんにその寿子が見込まれてねんた。そいで一緒になって前の二階の家に住んでいたんですが、べっぴんやったけれども、わがままでね。シャツの洗濯も着替えのひとつも用意せんかったちゆうことが度重なってねんた。とうとう荒瀬さんの堪忍袋の緒が切れて、日本刀を抜いて切りつけたんじゃって。そいで戸板に乗せて日赤に運んだけれども死んじやったちゆうて、それがわしの生まれた年(大正 6 年)の 8 月ですよ。それをどこから聞いたか知らんが、久米正雄が取材して婦人雑誌に連載してね。久米正雄全集の第一巻に『天と地と』という題で載っていますよ」

荒瀬中尉は出獄後には満州に渡り、そこでガス自殺したと彼女は語っています。そのおごうさん、こと斎藤清子さんは、残っている写真を見ても大変な美人です。しかも走り高跳びの山口県記録を持っていたというスポーツ万能の人で、山口高商の学生たちのマドンナ的存在でもあったようです。彼女は荒瀬夫妻の結婚式の写真を見たいのなのですが、その彼女をして「べっぴんさん」と言わしめた寿子がとんでもない美人だったのは想像に難くありません。当時の花形・飛行将校に飛びきりの美人の取り合わせです。あたかも一服の絵を見るような気がするわけですが、現実はおとぎ話のように話は進まなかったということになります。

上に紹介したように、おごうさん自身が身内の事件を少しも隠し立てすることなくストレートに書き残していることには本当にビックリしました。別の資料には、当時荒瀬中尉は事故を起こした直後で少し神経衰弱気味であったともあります。

遠い昔のこととはいえ、菜香亭という、あの煌びやかな世界のすぐ近くで、当時花形であった陸軍パイロットがこんな事件を起こしていたという事実には、野次馬根性も手伝って大いなる関心を持ってしまったのでした。そういう意味では、この事件を題材にしてゴシップ風の作品を残した久米正雄と少しも変わりません。本来は、おごうさんの気風の良さを学ばねばならないのですが・・・

ふるさとの味めぐり「バリそば」

山根 祥二(会員 No.700)

山口市のソウルフードの思い出です。

私は山口市宮野、護国神社のすぐ後ろで、高校卒業まで過ごしました。学校は大殿です。今は両親とも他界し、実家ありません。帰省の際は湯田温泉に馴染みのホテルがあり、いつもお世話になっております。ちょうど5月8日に「旅サラダ」という番組で山口市の建物・歴史にフォーカスした、番組がありました。どこも遊び場で、楽しく懐かしくテレビを見ました。

今回村中さんよりバトンを受け、GWに取材予定でしたが、コロナで動けませんでした。そこで大好きな「バリそば」について書こうと思います。実は社会人となり帰省する度に両親と一緒に食べに行っていました。「今これが、はやっちよる」と聞き、そのボリュームに驚きました。私の子供時代の懐かしさは「江戸金」のラーメンかもしれません。



「バリそば」は終戦後に台湾料理を参考に作られたものです。長崎の皿うどん・中華のあんかけそばと類似しますが、鶏がらスープを使うのが特徴です。食べ始めはバリバリするので、この名前が付いたようです。その後麺にスープがしみて、鶏だしのコクを楽しみ、たっぷりの胡椒やポン酢を加えて味変を楽しみます。

「春來軒」さんが市内に数店ありますが、私の記憶では大市の江戸金さんの近くの小さなお店が始まりのように思います。同級生の「村上充君」がバリそばにはまり、修行して東京の町田に、バリそばの店を出しました。15年くらい前です、開店に駆け付けました。本当の味に拘り各地から材料を仕入れてました。病気になり閉店したようです。

山口のバリそばは、B級グルメのブームでにわかで作ら

れたものとは違います。全国的に競う必要はなく地元の方が、たまに食べに行く、私たちのようにふるさとに帰省したものが懐かしく食べる商品でいいと思います。私にとって、大人になって父・母とゆっくり話したり、食事する中で両親と一緒にバリそばを食べた事が、たえがたい思い出です。ふるさとの味とは、そういう思い出がある食事の事だと思えます。今では帰省して一人で食べると、寂しい気持ちになりますが、いつまでも続いてほしいですね。

次にふるさとの味で忘れられない、子供時代のソウルフードに「昭ちゃんコロッケ」があります。



父が中国電力でしたので、帰りに買ってきてくれました。今では大殿中サッカー部の後輩でもある中嶋君が東京で展開する山口料理「福の花」で出してくれます。東京にいてうれしい限りです。通販もしており全国区になりつつあります。中嶋君「バリそば」にもチャレンジしてください。

その他には、私の年代では子供の頃の外出は多くありませんでした。父と一緒にいったラーメン屋さん、中学生時代は「ちまきや」の地下で食べたソフトクリーム、お祭りの時の「喫茶ザビエル」でのかき氷やパフェなどでした。ちなみに本町にある「大島屋」は遠縁にあたり「昭和の食堂」の代表のような店で4年くらい前に、チャンポンが400円でした。味・値段・雰囲気、三拍子がそろった店です。おじさん、おばちゃん元気にしているかな。それから湯田近くの葵町にある「お食事処山下」は同級生の店です。うどんがメインですが「お米マイスター」が厳選した「ごはん」も美味しいです。(ちょっと宣伝)

最後になりますが「バリそば」は帰省の際の楽しみです。地元の方も多く行かれているようです、山口の風・雰囲気・人柄が、いつまでもバリそばを美味しくしてくれるでしょう。

次は、会員 No.670 の岡本達也様にたすきをつなぎます。宜しくお願いします。

「地元山口で地域の人と産業を結ぶシードルづくりを目指して」

原田尚美（やまぐちシードル/会員 No. 777）

私は、山口県山口市でシードルの商品企画と販売を行っている。シードルとは、リンゴが原料のスパークリングワインである。地元・山口の食文化を盛り上げ、山口をワクワクする地方都市にしたいと思い、私自身はリンゴもお酒も作れないが、山口市阿東地域特産の「徳佐りんご」を使ったシードルによる地域おこし構想「やまぐちシードルプロジェクト」を2017年に立ち上げ、シードルの商品企画・販売を行う「やまぐちシードル」を2019年に創業した。特産果実を原料とする新しい地酒（地シードル）の企画・醸造・消費を地域内で循環させ、新しい連携を生むことで、地域全体の付加価値向上に取り組んでいる。

さて、皆さんご存知のとおり、山口県山口市阿東徳佐地区は、西日本有数のリンゴ産地である。ここで栽培される「徳佐りんご」を原料に、3種類を企画・販売している。日本海、瀬戸内海、響灘の三方の海から山口県に吹き込むすがすがしい潮風をイメージした辛口の「UMI（海）シードル」、自然溢れる山口県の穏やかな山々をイメージした甘口の「YAMA（山）シードル」。この2種類は、山口県の新鮮で豊富な海の幸、山の幸を引き立てる食中酒として商品企画した。

YAMAGUCHI CIDRE LINEUP



そして2021年数量限定でリリースした、未熟りんごの持つほどよい酸味と甘みを活かした「KAZE（風）シードル」である。

私は、2016年に関西から山口市にUターンした。関西では会社員をしつつ、週末は援農ボランティアや里山再生活動に参加する中で、農と食と人を繋ぐ仕事をしたいと考えようになった。もともとワインが好きだったこともあり、業種や社会的な立場など様々な違いを持った人たちが繋がり、コミュニケーションをとれるツールとして、ワイン醸造に興味を持った。

山梨県でのボランティアの帰りに、ワイン特区を活用した小規模ワイナリーを知った。そこでは、生産量は少ないながらも、ブドウの栽培からワインの加工までこだわった生産を行っていた。それまで、

ワイン生産には大規模な設備が必要だと考えていたが、生活の営みの中でのワイン生産が可能だという発見があった。

そのような折、地元の山口市での地域おこし協力隊の募集が開始されることを知りUターンすることを決意した。地域おこし協力隊とは、総務省の地方創生事業の一環で、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に移住して、地域おこし支援などを行いながら、その地域への定住・定着を図る取組である。着任当初、ワイン醸造を核とした地域づくりを目指していたが、徳佐りんご生産者や日本のシードル文化を牽引する人たちとの出会いから、原料はブドウではなくリンゴを活用することにした。また、山口県が開いた6次産業化・農商工連携人材育成研修を受講し、山口県周防大島町で地元農産物を活用したジャムの生産・販売を手がける「瀬戸内ジャムズガーデン」の松嶋匡史氏の講演を聞いたことで、農家完結型ではなく、地域内連携型「6次産業」で、それぞれの強みを活かした、地域内産業共存共栄のスタイルを目指した。

シードル醸造を核に、地域資源を繋げた「梨とりんごのお花見ピクニック」「阿東の美食ツアー」「りんごのもぎ上げ体験」などを企画し、地域の個性と多様性を結びつけ、柔軟なコミュニティの構築に取り組んだ。年々、イベント参加者も増えてきた。

地域の新しい地酒であるシードル醸造を目指したことで、たくさんのお会いに恵まれ、たくさんの挑戦をし、様々な連携を進めることが出来た。シードルと共に暮らしを豊かにする地域逸品との



コラボギフトセット「やまぐちシードル プラス」というシリーズも誕生し、協力者や応援者も増えた。大変感謝している。自分自身のやりたいことだけをするのではなく、コミュニケーションを取り、他者とバランス良く連携しながら、共に楽しめるこの地域ならではの事業を継続させ、地域全体で盛り上がっていききたい。

世代を超えて魅了した山口の風景

本部・幹事 田中 美旋律 (会員No.753)

「この汽車、傘寿を超えたらしいよ。」「へー、そりゃ立派な後期高齢車だ(笑)」

そんな私と母の憎まれ口も聞こえないほどに、父、夫、息子の男衆が夢中になっていたのが、SLやまぐち号。



父は、定年後のあり余る時間を山口市内の撮影に捧げている。毎日 10,000 歩のノルマを課して、山口市内をカメラ持って歩き回り、風景写真を撮っている。すでに 400 日を超えてノルマ達成しているらしいからたいしたもの。毎年四季折々の山口の風景をカレンダーにして送ってくれるので、オフィスのデスクにはいつも山口市の風景がある。毎年 1 枚は必ず SL の写真が入っており、なかなかの迫力で良い写真だったりする。

母によれば、父は SL の撮影スポットだといって、藪の中までも入って撮影していることもあるそうで、いつの間にか立派な撮り鉄になっていた。

去年の SL やまぐち号最終日、そんな父が孫に SL を見せたいと、仁保～徳佐間で SL を追い越しては見送り、追い越しては見送り、最後は十種ヶ峰近くの丘の上から見送った。

息子は今、アニメ『鬼滅の刃』が大好きで、映画版に出てくる無限列車に乗るのが夢。無限列車は蒸気機関車で、SL やまぐち号は無限列車にしか見えないらしい。「炭治郎(鬼滅の刃の主人公)の羽織を着て、山口のじいちゃんと無限列車見ないといけなから、山口に行きたい！」と何度もせが

まれるほどに、彼には無限列車が走る山口は魅力的。

夫がスマートフォンで撮った SL やまぐち号の動画で繰り返し復習。保育園でも私のスマートフォンにある動画を、先生やお友達に見せ回った。お友達の多くは、息子と同じように『鬼滅の刃』が大好きで、無限列車を見た息子は、しばらく羨ましがられて鼻高々だったらしい。

浜っ子でシティおじさんの夫は、父と息子ほどではないまでも、SL を初めて見たとのものでその迫力、音、気品に驚いていた。「いつか乗りたい」と、時々 JR 西日本の情報確認している。切符が手に入ると良いね・・・と、見守っている。

母は、高校生の時に阿東の山奥から出て、山口市に下宿をしていた。母にとっての SL は、ホームシックだった高校時代を思い出すほろ苦いものらしい。阿東から山口の下宿に戻る汽車の中で、淋しくて淋しくて、一緒に戻る友人と「家に帰りたいね」と涙ぐんだという話は、何度も聞いたことがある。



私はというと、見れば「あ、SL だ！」と少しは興奮するが、せいぜい母と冒頭の憎まれ口をたたくくらいの話で、残念ながらたいしたエピソードがない。ただ、一番身近な 3 世代の男衆を魅了した SL が走る山口市の美しい風景が、無限に続く未来に残ってほしいと心から願っている。

< 新入会員から一言 >

今回の七夕会通信より、新入会員の方からご投稿いただいたメッセージをお届けします。今回は掲載初回ですので、令和2年7月以降に入会された個人会員の方々のメッセージを掲載させていただきます。

【秋貞 憲治さん 会員 No.782】



4年前に県庁を定年退職しました。学生期などを除き55年余も山口市に居住しながらも交流範囲が狭いのは、仕事柄と公務員倫理という厄介な呪縛に遠因があったと考えますが、現在は、「放言高論。暴れちやる」との生来の性格そのままです。

こども食堂用の野菜栽培や、全国きき酒選手権大会の山口県代表として4度目の全国大会出場を目指すことは、当座の活動。一方、山口高校同級生の大浜三平君(阿知須出身。七夕会会員 No.746)を手伝って、山口県からパラバドミントンオリンピック選手を出すこと、会津と長州が共通の歴史認識を持つことなど、ドラえものの「ひみつの道具」ばりの夢想も抱いています。皆様には、お世話になりますが、よろしく願い申し上げます。

【板井川 浩さん 会員 No.783】



私は、日本橋人形町に住んでいます。経営コンサルタントを営んでいます。今年、還暦になってしまいました。実家は山口市黒川にあります。名前が珍しいのですが、それでも山口県に2軒あります。元々の出身は今の萩市田万川町です。子供の時は、父が警察官だったので阿東町を回りました。その後、大内中学校、山口高校、山口大学と進み、卒業後、山口を離れました。(株)INAXという住宅設備機器メーカーに就職し、全国を回りました。そして、3年前に独立しました。

これからの10年は、社会に貢献したいと思っています。故郷、山口も同様です。その為、七夕会にも参加しました。久しぶりに郷愁にかられました、中也の詩を思い出します。

【益本 圭太郎さん 会員 No.785】

このたび再入会しました益本です。どうぞよろしくお願いいたします。高校まで山口市湯田・朝倉で、以後は首都圏を中心に過ごし、3年前にUターンしました。山口七夕会の発足当時、直ちに入会しましたが、故あって一旦退会、山口に帰ってみて、七夕会の設立趣旨をふるさと山口本部会員として少しでも実現したいと考えて再入会しました。会員は、お互いに教養を高めるだけでなく、郷里山口のためにできることをし、山口市の発展につながる様々な提言を行い、実現に向けて行動することが求められていると思っています。



【岡村 英作さん 会員 No.787】



この度、渡邊副会長にご紹介いただきまして、山口七夕会に入会させていただきました。生まれは、山口市の道場門前です。曾祖父は、ひし屋という下駄屋を営んでおりましたが、現在は廃業し、昔ダイエーの1階にあった鉄板焼きそばで有名な喫茶店になっています。金竜館の隣と言うと思い出される方もいらっしゃるかと思いますが、商店街に映画館もファーストフード店もあった時代は平成生まれの私には正直全く想像が付きません。ところで、新型コロナウイルスの影響で七夕祭りも開催できていないと聞いております。私も毎年手伝っていただけに、非常に残念でなりません。またいつか山口に提灯の明かりが灯った風景を皆様と見ることができれば幸いです。不束者ではございますが、何卒よろしく願い申し上げます。

【行本 徹さん 会員 No.788】

この度、山口七夕会に入会させて頂く事になった行本徹です。50歳の時の高校同窓会の東京での集まりを機に、再度故郷“山口”への想いと仲間との繋がりを強く感じて参加させて頂く事になりました。

高校を卒業して、はや36年が経とうとしています。その間、盆と正月の帰省はほぼ欠かさず実施してきました。“ふるさとは遠くにいて思うもの”とはよく言ったものの、帰省した際には、あの山口の独特な山並み、きれいで穏やかな海といった風景とオレンジ色のガードレールに癒されほっとさせられます。

生まれは山口市といっても鑄銭司です。歳をとるとその地名にも心奪われる事もあります。父が電力会社勤めで、小学1年の時に防府それから小野田市等で暮らすこともありましたが中・高校と6年間山口市に通学させて頂きました。



【山口市役所だより】

いよいよ
開幕!

7つの市町でつなぐ、7色の回廊
山口ゆめ回廊博覧会
2021.7.1^{thu} - 12.31^{fri}

イベントは180以上!
詳しくは公式HPで



山口市・宇部市・萩市・防府市・美祢市・山陽小野田市・島根県津和野町の7市町で開催する博覧会です。会期中、圏域各地で、「芸術」「産業」「食」などの地域資源を組み合わせた魅力的なイベントや特別感のあるまち歩きプログラムなど多くの催しが開催されます。

～イベントの一部を紹介～

Yumehaku Art & Food『Osmosis 滲透』—オズモウシス しんとう—

船越雅代 / Masayo Funakoshi(Farmoon)

開催日:9月19日(日)・20日(月・祝)・21日(火)

会場:香山公園 瑠璃光寺五重塔・満月の庭周辺

定員:各回20名程度 料金:未定(要予約)

世界中を旅し、歴史や風土、食材や文化などを綿密にリサーチし、その土地だからこそ派生する食のプロジェクトを手がけるアーティスト船越雅代が構成・演出する食とアートのイベントです。



Photo: 桑原 明文



ゆめ散歩 2021「ガイドさんと行く!とっておきのまち歩き」

開催期間:7月~12月 会場:7市町

ゆめ散歩 PREMIUM(21プログラム)、ゆめ散歩(41プログラム)

地元ガイドが案内するまち歩きや、特別な場所でちょっとした贅沢な体験など、圏域の歴史、文化、自然、産業など、地域の人としっかりと触れあうガイド・体験ツアーです。7市町の特産品が当たるスタンプラリーも実施します。

7市町の見どころが詰まった
『公式ガイドブック』を販売中!

¥1,100円(税込)

128ページ(お得なクーポン付)

山口県・福岡県の書店・コンビニ、
広島県・関西・関東の主要書店、
Amazonにて販売



【スマート空港タクシー】

山口市湯田温泉⇄山口宇部空港
直行乗合
タクシー 通常¥10,000 → **3,000**円~

ご予約、運行エリアや時間、利用方法など

詳しくはコチラから! →
または、お電話でお尋ねください

TEL:083-902-0897



<法人会員募集>

=法人会員（年会費1万円）を募集しています！=

～山口七夕会では、財政基盤の確立と組織の拡大のため、法人会員を募集しています！～

○山口七夕会では、各事業年度内に原則3回、会員の皆さんに機関誌「山口七夕会会報(9月)」、「山口七夕会通信(1月&6月)」を市報「やまぐち」などの情報とともにお届けしています。

○法人会員の皆さんには、各事業年度内に1回、チラシやパンフレット等を機関誌に同封してダイレクトメールとしてご活用いただくことができます。(単純に計算しますと、切手84円*現在の個人会員数355名=29,820円のコストが年会費1万円の法人会費に含まれることになります。)

○会員の皆さんのご関係者やご懇意の法人様の紹介を宜しくお願いします。

※お問い合わせ、申し込みは、以下の山口事務局までお願いします

山口市七夕会事務局(山口市企画経営課内) 担当:岡村 TEL:083-934-2746

<個人会員募集>

=個人会員（年会費1,000円）を募集しています！=

1. 入会方法

山口市七夕会事務局にメール・電話等でご連絡をいただければ、ご指定のご住所に申込書セットをお送りいたします。

(1) 申込書セットに同封されている入会申込書に必要事項をご記入のうえ、山口事務局宛に送付してください。

(2) 申込書セットに同封されている会費振込用紙を利用し、郵便局から年会費を振り込んでください。申込書が事務局に到着し、会費の振込が確認できましたら入会手続きは完了です。

<山口市七夕会事務局(山口事務局)>

〒753-8650 山口市亀山町2-1 山口市役所 企画経営課内 担当 岡村

TEL:083-934-2746 (土・日・休日を除く、平日 8:30~17:15)

Mail:kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

2. 年会費のお支払について

通信欄には、氏名、住所、年会費何年分の支払であるかを大きなはっきりした字で記入してください。事務手続の軽減のため、複数年分できれば3年分の一括納入にご協力いただきたく宜しくお願いします。ご不明な点がございましたら、山口事務局までご連絡ください。

< 七夕会「通信」・七夕会「会報」の表紙・原稿を募集します >

1. 表紙の書、写真、イラスト（書や山口ゆかりの写真、イラスト等を募集します。）
2. 大使の一言（「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージを掲載します。）
3. 私の一言（次のテーマと要領で、皆さんからの投稿をお待ちしております。）

★募集テーマ

- (1) 山口市何でもランキング(山口市の全国ランキング関連情報、山口市が始まりの物品・慣習情報など)
- (2) 山口県外の山口「市」(「県」でも可です)ゆかりの地や名跡、建物紹介
- (3) 東京での同窓会活動(山口市内の小中高・大学・短大・専門学校等の同窓会活動情報)
- (4) 活動紹介(文化財保護やスポーツ選手後援会などの営利活動以外の活動紹介)

★字数

1,600 字程度に加え写真 2 枚程度を前提としております。文字数や写真の枚数によっては、字数やフォント、行間を調整します。

★投稿締切

「会報」9月号掲載の場合は8月中旬、「通信」1月号掲載の場合は12月中旬、編集長必着です。

★投稿提出先

編集長の相山副会長・本部長のメールアドレス「tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp」へ電子データ(Word、テキスト形式など)でお送りください。

※七夕会「通信」は白黒印刷、七夕会「会報」はカラー印刷です。ご承知おきください。

< ピンバッジ&缶バッジ販売会計報告 >

令和2年から3年にかけて、二度にわたって募集した七夕会20周年記念ピンバッジ&缶バッジには多くの方にお申込みいただきました。誠にありがとうございました。以下の通り会計報告をさせていただきますのでご確認ください。

山縣前幹事長が作成に注力され、伊東会員にデザインのご協力をいただいたバッジです。七夕会のイベント、交流会や会員の会合等で是非ご着用ください。

【収支報告】

1. 収入 74,770円

＝バッジセット購入代金(1,000円×76セット)－振込手数料

2. 支出 60,140円

＝バッジ代金(75セット) 51,420円＋郵送料 6,890円＋募集チラシ印刷代 1,170円
＋封筒・梱包材等 660円

3. 収支残金＝余剰金＝七夕会予算への寄附額 14,630円

4. 補足

バッジの在庫が1セットありますので、七夕会本部で保管します

※バッジ1セットの制作費用は1,200円ですが、まとめて制作すると単価が下がります。余剰金は、二回の募集とも一定数の発注が出来たことから発生したものであり、当該余剰金は当初のご案内の通り七夕会予算に寄附金として算入させていただきます。

< 表紙の言葉 >

コロナ渦中、しかも鬱陶しい梅雨の時期に、敢えて「瑠璃光寺・五重塔の冬景色の水墨画」を投稿させて頂きました。会員の皆さまに「懐かしい安らぎ」を感じて頂ければ幸いです。昨年「山口市菜香亭の雪舟のイベント」で、「四季山水長巻図」を仲間と半月かけて模写した結果、このような水墨画が生まれました。大内文化をもっとアピールしていきたいです。 (会員 No.759・原田哲也 画号・仙哲)

【編集後記】

七夕会の会員は、山口市内や山口県内はもちろん、日本全国にいらっしゃいます。コロナ禍は、地域によって濃淡はありますが、安全な場所は存在しません。七夕会通信6月号の編集時期においては、特に山口市の感染者数の増加に心が痛みました。感染予防に最大限注意されている方が感染された例もあり、今はインターネットを通じた打合せや交流会が、実際に集まって顔を見ながら開催できるよう、一日も早いワクチン接種の浸透が本当に待ち遠しいです。

さて、七夕会の機関誌である七夕会通信と七夕会会報について、できるだけ多くの方に読んでいただければと願いながら編集をしております。そのためにも、できるだけ多くの方からの投稿をお待ちしております。

因みに今回の七夕会通信6月号では、表紙に水墨画を掲載させていただくとともに、新入会員からのメッセージも掲載させていただきました。投稿のみならず、新たな誌面作りに関するアイデアもお寄せいただければ幸いです。

編集長(山口七夕会副会長兼本部長) 梶山俊哉

七夕会関連インターネットのご紹介

- ①七夕会ホームページ (<http://www.yamaguchi-tanabatakai.org/>)
- ②七夕会フェイスブック(会員限定です。閲覧を希望される方は、七夕会役員までご一報ください。)
- ③山口市ファンクラブ(フェイスブック) (一般に公開されているページです)
- ④メール「山口ゆかりの皆さんへ」(随時発行の山口関連情報メールです。ご希望の方は発信者である本誌編集長の梶山のメールアドレス tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp までご一報ください。)

【事務局からのご案内】

◎転居されるご予定のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと七夕会通信や市報等の資料が届かなくなってしまう)

◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

- ★山口七夕会事務局(山口市企画経営課内)
〒753-8650 山口市亀山町2番1号
TEL 083-934-2746
- ★本部(梶山本部長)
tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp